

区民と区長のタウンミーティング（2023年11月9日開催）

テーマ：障害のある子どもたちへの支援

学校における支援に対する意見

特別支援学校に通いながら、副籍交流で区立学校に行くことがあるが、受け入れる学校側の施設や環境が整っていないことが多い。また、個人単位で学校に行っても、子ども同士の交流はあまりできていないように感じる。子ども同士の交流を1つの行事として、学校間交流のように実施すれば、親・子・学校の負担を少なくしながら、よりよい交流ができると思う。

通常学級に知的障害のある子どもが通っても、介助員などによる支援を受けられない。インクルーシブ教育を目指すのであれば、各学校に介助員を配置するように制度化してほしい。

小学校に通うために子どもをバスに乗せているが、バスに看護師さんが同乗できないときは保護者が学校まで同乗する必要がある。安心して就労することができないうえ、他の兄弟児で体調不良等があると、その子まで学校を休ませることになり、就学の機会を奪うことになってしまっている。通学バスにはいつでも看護師さんを配置してもらおう等、安心して学校に通わせられる体制にしてほしい。

障害のある子どもたちの外出や居場所に対する意見

ユニバーサルデザイントイレの普及が進んでおらず、子どもとの外出をためらってしまう。公園や商業施設などの様々なところに設置されたり、設置場所が事前に分かれば、もっと地域に出ていきやすくなる。

障害のある子どもが、障害のない子どもと一緒に遊べる場所が少ない。障害があっても、気兼ねなく児童館や公園で遊べるようにしてほしい。

これから中野区はまちづくりで大きく変わっていく。バリアフリーなまちにしてもらうことはもちろん、再開発ビルの中の1つの施設として、放課後デイサービスや相談できる場所などの障害のある子どもや家族向けの場所があってもいいのではないか。

療育や放課後デイサービスを受けられる施設が少なく、家から遠い。問い合わせると利用できないことが多いうえ、利用できても区内の北か南に施設があるため、自宅や学校から施設までの移動が負担になっている。また、発語などの専門的な療育を受けようとする、遠くの他自治体に行く必要があり、親の負担が大きい。

親の就労支援に対する意見

子どもの介護・ケアの負担が重く、家事や仕事をする時間が確保できない。区の支援を利用したいが、仕事をしていないために使えず、仕事に就くことが難しい。重度訪問介護の制度を子どもにも適用できれば、親の就労につながると思う。

希望の日数・曜日に放課後デイサービスを利用することができていないほか、長期休暇は時間も短くなってしまふ。日曜日や祝日も放課後デイサービスに通えると、親としては非常に助かる。

保育園入園の際、子どもが要配慮児童になると、入所数が極端に制限されているうえ、空き状況の公開もされていない。障害の有無によって保育園への入所機会を制限しないでほしい。

その他、サービス全般に対する意見

行政の情報はホームページや冊子を調べることでしか手に入れることができない。育児と介護に忙しい保護者は情報を取りに行く時間が無く、保護者間で情報格差が生まれてしまっている。LINEなどのSNSを通じて、障害児のサービスに関する情報を区から積極的に発信してほしい。

相談支援は各地域のすこやか福祉センターで、きめ細かく受けられるように体制づくりをしてほしい。また、医療的ケア児の把握漏れが無いようにしてほしい。

ヘルパーの確保が難しくなっており、介護の担い手不足を感じている。人材確保のためにも、中野区独自で待遇・賃金改善の取り組みをしてほしい。

行政のサービスや手当が所得制限によって受けられない状況がある。子どもの障害は経済的に負担が大きいため、制限をつけないでほしい。

支援やサービスが子どもの年齢で区切られてしまっている。中学生以降は学童などの預かりサービスを受けられなくなる。また高校を卒業すると、子どもの頃に受けられていたサービスが使えなくなり、親子ともに負担が大きくなるため、将来に不安を覚えている。通所施設の充実やショートステイ、一時保護の継続など、年齢による切れ目のない支援をお願いしたい。